

令和3年度 定期監査・行政監査の報告書

(令和3年10月14日～令和3年11月18日)

● 町長部局

1 総務課

- 現在、和水町の財政は公債の償還が10億円に達し、実質単年度収支もマイナスとなっている。経常的な費用の増加を抑え、政策効果の低い施策は思い切って止めるなど、持続性のある財政にしていくことが肝要。
- 公共施設の統廃合についても、個別計画に沿って着実に実施されたい。
- 町民が特殊詐欺や悪徳商法等のトラブルに巻き込まれないよう、近隣市町とも連携して対処されたい。
- 震災対応の体制を強化し、町民の安全・安心に繋がれたい。
- 来年の町長、町議会議員選挙は経費の一部公費負担が認められたので円滑な執行が出来るよう、事前準備を徹底されたい。

2 まちづくり推進課

- ふるさと納税寄附金については順調に推移しており、10月末 約3億円、今年度末6億円を見込んでいる。
- 移住、定住の施策については、「藤田さくらタウン」分譲が完売し、移住定住支援センターが10月にオープン、相談者が1日5～10件に達しているようである。
- プロポーザルによる学校跡地活用事業の推進で、企業誘致もなされている。
- 各種の施策によって町の活性化に繋がると思われるので引き続き注力されたい。

3 税務住民課

- 町税等滞納分について、長期滞納者、高額滞納者とも実態把握がよくなされている。預金、給与の差押等によって地道な徴収、努力が窺われる。
- ともしれば、当たり前である納税について血税であるとの自覚を持って、執務に臨んで頂きたい。
- 住民対応について、先ずよく話をお伺いし、考えを聞いてから説明し、納得してもらってお帰り頂くようにしているようである。

4 健康福祉課

【神尾保育園】

- 保育士不足で入園を断った例があるもよう。
- 園のスタッフが女性だけなので、防犯上、不安がある。
- 専属の事務員がいないので「困っている。」との声があった。

最近、他県で園内の遊具に園児が首を挟まれ重体になった事故があるので、注意

が必要。

幼児が相手なので、一時も目を離せない。日々、緊張感を持って子供に接してほしい。

【なごみ学童クラブ】

本年4月にオープン、利用者登録は88名。

当初は40～60名程度の利用者だったが、最近は60～70名程度に増加している。

現在の利用者は、1年生 24名、2年生 26人、3年生 23人、4年生 12人、5年生 3人、6年生 0人となっている。

スタッフが迎えに行くなど安全面も配慮している。働く母親の増加により、保護者のニーズを十分満たしていると思われる。

【その他の業務について】

- 住民健診の受診率は、令和3年度は62.7%（令和2年度 66.1%）となっており、コロナと長雨の影響で低下した。コロナの影響が大きかったが、引続き受診率の向上と事後指導を徹底してもらいたい。
- 子供・子育て、障がい者福祉、生活困窮者、高齢者福祉、地域包括支援等幅広く和水町の社会福祉事業に携わっており、より身近で住民に寄り添った住民サービスを行っている。安心して暮らせる町づくりに一層貢献して頂きたい。

5 住民課

- 住民サービスの最前線である窓口業務充実の為の実践6項目が、掲げられている。大変良く出来た目標項目であるので、これに沿って住民との信頼関係を強化されたい。
- ややもすれば特定の人に仕事が集中したりして業務が滞ったりするので、上司は業務の遂行状況をよく把握されたい。
- 春富財産区については、行政区の意思を尊重しながら行政として適切な対応に努められたい。
- 三加和地区では、7つの公害防止協定が締結されているが、住民と業者との適度な折り合いが付けられるよう努められたい
- 保健師の常駐については、住民サービスの観点から、本庁との調整に努められたい。

6 農林振興課

- 今年は、長雨と10月に入ってから的高温と晴天続きで水不足と害虫の多発で野菜の生育が悪いようで、野菜農家の経営は厳しいと思われる。
- 米農家についても、米の作況指数が県内は97で「やや不良」となっている。昨年からのコロナ禍での米の消費落込みで在庫が増えて、今年は単価が2～3割安くなると言われており、同様に経営は厳しいと思われる。

農業経営を支える為の各種政策によって農家に寄り添った対応が求められる。

7 商工観光課

- コロナ禍での町内事業者の廃業倒産は、発生していないよう。
- コロナ関係の制度融資が、多くの事業者に利用されている。町として利子補給制度で支援する用意も出来ている。
- 三加和温泉センター、緑彩館の売却については、よく検討して住民の合意を得ながら慎重に対応して頂きたい。

8 建設課

- 去年の豪雨災害による災害復旧工事が今年度も引き続き継続中だが、業務も一段落しており、昨年とは違って夏季休暇も取得できているようである。残業時間も減っているようである。
- 住宅、簡易水道等料金滞納管理については、滞納者の実態把握もなされており、滞納額5%削減目標が立てられているので期待したい。

9 会計室

- 基金の運用については、現在、限度額15億円近くまで活用されている。引続き、安全で効率的な運用に留意されたい。
- 公金の支出に当たっては支払いが遅延していないか等、チェックして迅速な支払いに努めること。
- 町税の徴収について窓口等で積極的に口座振替を推奨するとともに、新しい決済手段、例えばコンビニ決済、スマホ決済についても、積極的に検討されたい。

●農業委員会

- 農地の集積、集約化は少しずつ効果がでていられる。
- 耕作放棄地の発生防止、解消も少しずつ改善しているようである。保全隊の活用も検討してはどうか。
- 新規就農については、各種補助制度が準備されているが、なかなか新規就農者は少ないようである。農業の魅力を高めるように引続き地道な努力が必要である。

●議会事務局

- 議員研修、監査委員研修に今後も注力し、資質の向上に努められたい。
- コロナ禍、議会の円滑な運営に努められたい。

●教育委員会

1 学校教育課

- 春富小学校・緑小学校の今後の活用と維持管理をどうするか、よく検討する必要あり。

- 補助金が切れた後の小学校スクールバスの運行管理についての検討も必要。

奨学金返還滞納者に対して、今年度も実態をよく把握しており、計画どおり返済がなされている。

2 社会教育課

- 各種イベントの実施は和水町のPR効果が大きく、町づくり、移住、定住に結びつくと思われるので、しっかりと対応されたい。
- 総合グラウンドについては、大きな投資をしているので町民の健康増進も兼ねて町民の利用者をいかに増やしていくか、知恵を絞られたい。
- 町の観光資産をいかに活用して活性化に繋げるか、知恵を絞られたい。
- 地域未来塾については、大いに期待したい。

3 菊水中・菊水小・三加和中・三加和小

- 4校とも学校徴収金の取扱いについては、現金の取扱いはせず、集金については、銀行の自動集金サービス、送金についてはインターネットバンキングを活用し、安全面に配慮している。
- 不登校の児童も見られ、中には長期不登校者もいるようで、それぞれ要因があると思われるので、SC、SSW等の支援を得て子供に寄り添ってもらいたい。
- コロナ対応については、検温、手指消毒、マスク着用等、十分注意はなされているようである。
- いじめの問題についても、アンケートを利用したり観察して早期発見出来るようにしているが、現状その兆候はないようである。
- 親から虐待、ネグレクトについては、虐待はないがネグレクトはあると思われる。ネグレクトは一人親世帯にその傾向が強いと思われ、SC、SSW等の支援によって解消に努められたい。
- 子供の貧困問題について、要保護措置児童もみられるので、例えば「朝食は食べてきているか」等に留意しながら家庭の経済状況の把握に努め、行政に繋がられたい。
- ヤングケアラー問題について「該当するのではないか」と心配する声もあった。実態を調査して、対応を検討されたい。

●町立病院

- コロナによる減収はあるものの、コロナ病床確保に対する国の補助金により赤字転落は避けられている。今年度も国からの補助金収入が見込まれ黒字は維持出来ると思われている。
- コロナ感染第6波が想定されているし、ヨーロッパでの感染再拡大も起こっている。国産のワクチンの開発、治療薬等医療提供体制も強化されてくると考えられるが、令和4年1月以降3回目のワクチン接種体制を整えられたい。

- コロナによる受診控え等によって落ち込んだ外来入院患者の回復にも注力されたい。
- 医療費未収金については、最近はしっかり抑えられているので、この状態を維持されたい。

●特別養護老人ホーム きくすい荘

- コロナの影響で入居者との面会制限（PC及び窓越し面会）で施設全体の行事が中止となり、入居者の楽しみが無くなり職員としても心を痛めている。
- 他の老健施設からの入居者の減少、町内の待機者の減少、建替え後の定員減、職員不足等により利用者が減少している。現在、定員 110 人に対して 98 人入居している。収入減に対して給食業務委託業者の公募により、給食費を年間約 500 万円削減するなど、経費の削減にも努力している。
- 職員の相次ぐ退職で人手不足が深刻化し、現在、人材派遣 6 名で対応しているが、それだけ人件費も嵩む。4 名募集したが、2 名しか補充出来ていない。介護士、看護師の確保が喫緊の課題である。
- 施設の建替えが決定したことで、今後、用地の選定へと進み、令和 7 年に完成予定となっている。

●財政援助団体等

1 ロマン館

- 前期決算は、当期損益が 5,947 千円の最終赤字となっている。5 期ぶりに赤字に転落した。コロナの影響で営業時間短縮や休館で売上高が前期比 33,066 千円減少（19.3%減）。又、来客数は 56,700 人減少した。内訳は、物産 107,029 千円（前期比▲22,501 千円）、豆腐・饅頭 16,503 千円（前期比▲4,992 千円）、温泉 10,914 千円（前期比▲3,909 千円）、その他 3,615 千円（前期比▲1,664 千円）、来客数は物産 112,518 人（前期比▲30,548 人）、浴場 46,281 人（前期比▲26,152 人）であった。売上、来客数が大幅に減少したことが、赤字の要因である。
- 入浴部門の問題点として、平均客単価が 236 円しかないということ。これは、年間パスポートが 38,000 円、半年パスポートが 20,000 円の為、平均単価が低くなっている。年間入浴部門の売上が 10,914 千円しかないのに燃料費だけで、4 月～8 月が 3,001 千円の実績となっている。月平均 600 千円で単純に見積もっても 600 千円×12=7,200 千円（年間）となる。
又、最近原油の上昇、高止まりによって 7,200 千円以上となるのは必至と見込まれる。浴場配管路清掃費 500 千円も見込まれている。更には、温泉部には、7 人のパート人件費も見込まれ、水道光熱費も加算すれば赤字は必至である。（現在も赤字状態）レジオネラ菌対策費も必要となる。このように赤字状態を続けていくのか、検討する必要がある。
- 問題点として売場が狭い、照明が暗い等、又 顧客からのキャッシュレス、クレジット等の利用が出来るようにとの強い要望があるようである。

三加和温泉ふるさと交流センター・緑彩館

- 令和 3 年 2 月決算について、最終損益は 20,741 千円の赤字であった。コロナの影響を強く受け、温泉を休館したことで、入館者数、売上ともに大幅に減少した。温泉の入館者数は前期比▲45,817 人の 55,105 人 前期の 54.6%、売上は▲24,232 千円の 24,503 千円 前期の 50.3%に止まった。緑彩館の入館者数は前期比▲111 人の 83,075 人、前期の 99.9%、売上は 6,513 千円増の 84,036 千円、前期の 108.4% だった。温泉部門の大きな落ち込みが赤字要因である。
- 今期は、令和 3 年 10 月時点での実績は売上 81,256 千円、売上総利益 40,568 千円、営業損益は赤字 3,092 千円、経常損益 1,167 千円の赤字と大幅に改善している。その大きな要因は労務費が 24,690 千円で売上高人件費率が 30.3%で前期通期の売上高人件費率 44.1%から大きく減らしている。正職員 6 人の内 2 人を配置転換し、温泉部門パート 3 人を減らしたことが主因と考えられる。通期で黒字転換は難しいと思われるが改善度合いは大きいと見込まれる。
- 株式会社丸美屋は、平成 25 年から三加和温泉の指定管理者となっている。今期は南小学校を買受け、一層和水町との関係強化を図っており、町の活性化に一層の尽力を期待したい。

3 社会福祉協議会

- 今年は、コロナの感染拡大で社会的に弱い立場の人の困窮問題が、クローズアップされている。社協としては、そういう人達の掘り起こしが重要となっている。
- 町民すべての人が安心して住める町づくりの為に、民生委員、区長、各種団体との連携によって、困っている人に寄り添った対応がこれまで以上に求められる。

4 和水町商工会

- 現在、商工会員数は 227 名で前年より 10 名増加している。増加傾向にはあるものの加入率は 60%程度で今後も加入率の向上が望まれる
- 会員の中には特に飲食業、観光事業者に於いてコロナの影響が大きく各種支援策を活用して商工会として支援している。
- 会員の中には高齢の経営者もいるので、会員に寄り添った経営指導によって事業が持続出来るように注力されたい。
- 会員の後継者問題については、半数の会員が、後継者がおらず事業承継は大きな課題となっている。後継者問題は町の活性化に直接係わる問題点である。